

毎月一回十五日發行(定價一部五錢一年郵稅共五十錢)



編輯人 森山 野上 田上 森田 田上 野上 田上 野上
 發行所 長野市 野上町 田上町 森田町 田上町 野上町 田上町 野上町
 印刷所 長野市 野上町 田上町 森田町 田上町 野上町 田上町 野上町
 印刷部 長野市 野上町 田上町 森田町 田上町 野上町 田上町 野上町

過渡期にある就職問題

毎年三月になると各種高等専門學校から夥しい新卒業生を送り出すことになる、ところが昨今では各會社工場からも人員整理で盛んに人を押し出してゐる、そこに兩者合流して混沌と渦巻返してゐるのである。如何にしてこれら職なき若人を働かにつかむるか、これ目下の一大問題でなくてはならぬ。

世は平和ながら所謂「就職戦線」なる言葉の因つて起る所以であつてわれらもこの「戦線」を馳驅していろ／＼と感じ又教へられるところがあるのである。

今迄不況のため會社工場が困憊してきたのは好況時の醉夢に災されその不用意に苦んできたのであるが又職を失つて困難してゐるものにもその覺悟が足りなかつたためではないか、不況とは言ひながら物價指數も幾分上向を示してきた、會社状態も決して昨日の如き苦境ではない、事實所謂合理化もその緒につき堅實な第一歩を踏み出してゐる、今年あたりより相當成績を擧げないことはない筈である、又職を求むる者も職を與へられんことを乞ふ代りに職を

自ら奪つて一事業の成績を擧げてやる氣概があつて欲しい、手近の例を見るに上級學校の出身者程就職率が悪いといふことは何を物語るであらう、同じ人間ならば同じ事に片づいてゆきそうなのではないか、思ふにこれには二つの理由がある。その一は就職についても何事についても他力本願でゆくことである。その二は他日の地位待遇等に不平を生ずるからである。

如何にも、世の事業家は激勵も監督も要せずには最近な仕事を確實にやつてゆける人間を欲してゐる、求職者亦一介の職工たることに甘んじてその覺悟を披瀝してゐる、けれども果してかゝる人を幾人得るであらうか、後日學校出がすべて職工である時機に到達すればいざ知らず現在の如き過渡期にあつてはその覺悟は脇を眺め同輩を見る時兎角鈍るものなのである、そのこれに先んじ、そのこれに勞す、と聖者は言つた。事業の根柢は勞働であるのであるから自ら時代の先覺となり自ら勞働を脇目ふらずにやつてのける者でなければ將來事業家たることも出來ぬのではないか。

桑園小作料について 碓氷 茂

- 一 まへおき
- 二 概括的にみた桑園小作料
- 三 地方的にみた桑園小作料
- 四 むすび

目下我國の蠶絲學界には、桑園の

小作料に關する科學的研究は皆無である。私は最近帝國農會が調査したところの桑園小作料を基本としてここに一言申し上げて見たい。勿論これとても、我々に充分の満足を得るものではないが、この方面の調査のされてゐない今日であるから、一

この新資料を提供するといふ意味でここにお聴き取りを願ふ次第である。

一 概括的にみた桑園小作料
 帝國農會は、佐賀・高知・長野・秋田の四縣農會と共に、大正六年同十二年及び昭和三年度の金納に換算したところの桑園小作料を調査した。その調査によれば金納に換算したところの概括的小作料は次のやうだ。

第一表

桑園小作料(反當)		細小作料(反當)		桑園收穫量(反當)	
大正六年	大正十二年	大正六年	大正十二年	大正六年	大正十二年
調査町村數	1	1	1	1	1
最高	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50
最低	0.20	1.00	0.20	0.20	0.20
平均	0.35	0.35	0.35	0.35	0.35
備考	ここに細小作料とは桑園を除いた細小作料である。以下同じ。				

第二表

大正六年		大正十二年		昭和三年	
秋田	高知	秋田	高知	秋田	高知
調査町村數	1	1	1	1	1
最高	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50
最低	0.20	1.00	0.20	0.20	0.20
平均	0.35	0.35	0.35	0.35	0.35

第三表

大正六年		大正十二年		昭和三年	
秋田	高知	秋田	高知	秋田	高知
調査町村數	1	1	1	1	1
最高	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50
最低	0.20	1.00	0.20	0.20	0.20
平均	0.35	0.35	0.35	0.35	0.35

調査にあつては調査すべき町村の如並びに桑園を上中下の三段に大別して、その各の如並びに桑園小作料を調査された。その平均が上記のやうに上中下となつて表れたのだ。で、この数字からは次のことが知られる。

- 1 桑園小作料は大正十二年が最も高く昭和三年これにつき、大正六年が最低。
- 2 桑園小作料は畑小作料よりも高い。

桑園小作料が大正六年に最も低く大正十二年が最大で、昭和三年がその中間にあることは、他の諸物價の高低と同様であつて、何等こと新らしく説明を要しない。次に桑園小作料が畑小作料よりも高いといふことは、養蠶業が一般農業、殊に畑作農

業中であつて如何に重大な役割を演じてゐるかといふことが知られる。

三 地方的にみた桑園小作料

さて次にこれが説明を、地方別に進めて見よう。第二表によつて知られる通り、大正六・大正十二・昭和三年の各年に渡つて、小作料の最も少ない地方は秋田縣であり、これに次ぐものが長野縣・佐賀縣で、小作料の最も高いところは高知縣である。

即ち以上の事實からは次のことが推測される。桑園小作料は東北地方が最も低く、西へ進むに従つて増大し、四國地方に於て最も高く、更に西、九州へ行つて少し低下する。尤もかかる断定を上述のやうな少数の資料によつてすることは甚だ暴論であるが、強いて以上の材料から断定を許されるならばかくの如きことがい

はれるのである。

然らば地方的に小作料にこの様な差異を生ずる動因は何であるか、それにはいろいろの動因が数へられるであらうが、その最も重大なもの一つは土地の肥沃度であらう。即ち反當桑園収葉量の大きな地方ほど小作料が高く、これに反する地方は概して低いものと思はれる。第三表は大體にこの邊の消息を物語つてゐる。

次に桑園小作料と畑小作料との相關關係に目を轉じて見よう。先づ畑小作料の状態は次の通りで、これが地方的關係は桑園小作料の地方的關係と殆んど同一傾向であつて、秋田縣が最も低く、長野・佐賀これに次ぎ高知縣が最も高い。

畑小作料

昭和三年

秋田 長野 高知 佐賀 計

調査町村數 7 10 10 10 計

最高 3,000 4,000 4,000 4,000 計

最低 1,000 1,000 1,000 1,000 計

平均 2,000 2,000 2,000 2,000 計

大正十二年

秋田 長野 高知 佐賀 計

調査町村數 7 10 10 10 計

最高 3,000 4,000 4,000 4,000 計

最低 1,000 1,000 1,000 1,000 計

平均 2,000 2,000 2,000 2,000 計

大正六年

秋田 長野 高知 佐賀 計

調査町村數 7 10 10 10 計

最高 3,000 4,000 4,000 4,000 計

最低 1,000 1,000 1,000 1,000 計

平均 2,000 2,000 2,000 2,000 計

さて次に地方別に桑園小作料と畑小作料とを見れば、各縣は何れも調査各年を通じて、桑園小作料は畑小作料よりも高い。即ち次表の如くである。

これを要するに、調査の範囲内では桑園の小作料は、歴史的に見れば大正六年が最も低く、大正十二年が最も高く、昭和三年はその中間であるが、このことは一般物價の騰落と同一傾向にあるものと見ることが出来る。次にこれを地理的にみれば、

秋田縣が最も低く、長野縣佐賀縣これにつき、高知縣が最も高いが、これは地味の沃否に關係あるものと考へられる。更にこれを畑の小作料と比較して見れば、桑園の小作料は畑の小作料よりは常に高い。このことは今日まで養蠶業が、農業經濟上、如何に重大な役割を演じてゐたかを

日記帳

和田 晋

昭和二年五月京都市に全國酒造組合大會が開催された。私は同業者數名と綠色濃き京都へ出掛たのである。大會は盛會に終りをつけたを以て僕一人四國から九州へ旅を續ける事にした。

五月十六日

宇野から船にゆられて四國の土地を踏んだのが十六日の朝まだき、讃岐の琴平様に参拜して直ちに四國の端に居る曾我兄を尋ねる可く汽車の走るもどかしく、道後に着く。

五月十七日

素晴らしい好天氣、長い峠を二つ越して八幡近くの港に出で、此隣りが曾我兄の在所喜須來の村と聞かされた時はつかれた足も元氣付き、照り付ける日光の曇りも何のそのと、やうやく目的の村に着き、曾我兄の家をさがし當て、ヤアとばかり顔を見合せた時は嬉しさが先に立つて言葉もすぐ出なかつた。二階に案内され

て汗の体をうんと延ばしてひっくり返つて骨を休める。折からトン／＼と上つて來たしとやかな若婦人、紹介されて曾我兄のベター・ハーフとわかり面喰つてヘンテコな挨拶をのべたものである。後ろにチヨコナンと据へたのは愛くるしい坊や、すでにパバになりまして「子供つて可愛ものさ。」

そして若奥さんと仲はすこぶる圓滿、わざ／＼四國の端迄來た一人者あてられるやら又嬉しいやらで其

の日は過ぎた。

五月十八日

翌日はすぐそばの海岸へ行き傳馬船を借りて二人で力限り根限りこぎ廻つた。四國の海岸は美しい。山の中から出て來た人間に取つて海景色は何よりの楽しみである。取り立てのピチ／＼した魚をうんとほ／＼ばつて、満腹の体を海岸づたひに歸宅する。庭先の夏蜜柑は黄色に枝も折れるばかりになつてゐる。すきな程喰ひ給へと言はれたがこればかりは一つで澤山だつた。

其の夜十時出帆の別府行の船迄送つて來て呉れた曾我兄、來年は信州へ行けるかも知れぬ必ず待つてゐるよとかたい握手をして別れた。ポーツと鳴り渡る汽笛と共に曾我兄の顔は暗の中に段々小さくなつて行く。

日記帳のページをめくり乍ら今これを讀んでゐる僕にはあの曾我兄が此の世のどこにも居ないなんてどうして思はれよう。

そんな馬鹿な事があつてたまるものかと思ふが、かたはらから事實だよと誰かゞさ／＼と、そう考へれば考へる程四國のあの時がしのばれて來る。嘘だ嘘だと否定する自分の眼がいつか／＼もつて日記帳がボンヤリして來るばかりである。懐しの曾我兄にはもう再び會へないのか。日記帳もかすんで見え無くなつた。然し僕はあく迄このページの事ののみ考へよう。それが今はなき曾我兄の唯一の思出なんだから。

昭和六年度上田蠶絲專門學校同窓會經費收支豫算書廣告

豫算		豫算		豫算		豫算		豫算		豫算		豫算	
款	項	種	目	本	前	本	前	本	前	本	前	本	前
一、會費	二、基本金	三、雜收入	四、寄附金	五、繰越金	合計	一、會費	二、基本金	三、雜收入	四、寄附金	五、繰越金	合計	一、會費	二、基本金
通常會費	終身會費	印刷稅	廣告料	雜收入	3,800,000	通常會費	終身會費	印刷稅	廣告料	雜收入	3,800,000	通常會費	終身會費
2,000,000	100,000	200,000	200,000	50,000	3,800,000	2,000,000	100,000	200,000	200,000	50,000	3,800,000	2,000,000	100,000
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考

款	項	種	目	本	前	本	前	本	前	本	前	本	前
一、會費	二、基本金	三、雜收入	四、寄附金	五、繰越金	合計	一、會費	二、基本金	三、雜收入	四、寄附金	五、繰越金	合計	一、會費	二、基本金
1,500,000	500,000	200,000	200,000	50,000	3,800,000	1,500,000	500,000	200,000	200,000	50,000	3,800,000	1,500,000	500,000
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考

款	項	種	目	本	前	本	前	本	前	本	前	本	前
一、會費	二、基本金	三、雜收入	四、寄附金	五、繰越金	合計	一、會費	二、基本金	三、雜收入	四、寄附金	五、繰越金	合計	一、會費	二、基本金
1,500,000	500,000	200,000	200,000	50,000	3,800,000	1,500,000	500,000	200,000	200,000	50,000	3,800,000	1,500,000	500,000
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考

前年度分前
 雜種類依
 分六種六
 除四種六
 費ヲ以テ
 定メルニ
 假充以テ

同窓會特別會計

學術雜誌編輯費豫算

一、同窓會補助費	五五〇、〇〇〇
二、會員雜誌代納入高	三五〇、〇〇〇
三、雜誌購置代金	一五〇、〇〇〇
合計	一、〇五〇、〇〇〇
支 出	
一、印刷料	五五〇、〇〇〇
二、雜誌送料	六〇、〇〇〇
三、編輯費	四三〇、〇〇〇
四、雜費	一〇、〇〇〇
合計	一、〇五〇、〇〇〇

但シ同窓會終身會費納入者約六十名ニ對シ雜誌ヲ送ルモノトス

近畿いろく。第一報

近畿千曲會 石原 石司

○三丹支部創立
六十余名の會員を擁し乍ら益々膨脹して行く近畿千曲會も地域上甚會合に便を欠き何時も綾部地方の諸君の御足勞を煩して居たが、お互に公職を持つ身であり會の爲に公務に欠く處あつては甚遺憾でもあり又遠隔地なる爲に時間とマネーの少費節約を圖る途もあり。又連絡上の問題も好轉するので今回綾部の諸君の肝煎りで丹波、丹後、但馬の諸君を吸合して三丹支部創立の機運熟し花の三、四月頃には之が創立總會が擧げられる事になつてゐる。

京都
○新學士の御目見え。
本年三月新農學士二名が社界に御目見えする事になつてゐる。

中澤薫君、永會豊吉君何れも新進鋭の學徒として諸君の期待を添ふ可く切角努力に余念がない「學士様なら娘をやらうか？」御兩君の爲に引手數多あらん事を切望す。

○新支部長吉川孟文君
家庭に愛の結晶第二世を加へて以來益々社界人として油の乘つた活動振りを見せてゐる。社界運動への第一線より家庭愛の戦線異状なく、實社界への活動へ！ 活動へ！

○西山市三君
日露の大戦を研究室の一室で夢と過し講和談判の世論ゴウ々たるを聞いて吾帝國の危機のあつた事を知つた學者があつた由、吾市三君も此種の學者農大の一隅畑に圍れた研究室で此不景氣も何處吹く風か？ 一路

研究へ！ 研究へ！

○湯澤重敬君
山科織紡の現業主任にある君は生産への道へまっしぐら産業の合理化を御手前に製造してゐる

特約組合……生産より消費へ！
紡織……國産奨励の途へ！
企業より利潤へ奮闘するメンバーの大きな役割を持つ君は優良なる國産への生産へ！ 生産！

○兒玉慶次君

○真山喜吉君

○島山茂太郎君

宇治の人絹王國に立籠つて不況を他に化學の魔力を遺憾なく發揮したいが昨今漸く不況の渦に巻き込まれエソヂニヤ一の悩みを痛切に感じつゝも益々化學への精進の道へ。

奈良

○藤井 料君

○櫻井卓三君

御兩人仲良く提携攝取の合理化運動へ。

○田村由次郎君

國家の中堅農村青年の教養と訓練へ

滋賀

○井澤喜三君

○出穂 稔君

業法改正に伴ひ益々多事ならんとする蠶界に未だ不徹底な業法の運用と活用へ。

○平林 茂君

純然たる蠶蠶品の生産と擴張へ技術者としての本分を全ふしつゝ。

○兒玉 來君

○久保田松二君

不況に沈倫せる製糸業者の細い煙の下に子々として現業の活動。痛い生産調節の道へ。

辭令

公立實業學校教諭

浦山 藤吉

八幡坂下町(二月十日長野縣)

住所移動及訂正

(自昭和六年一月至二月)

高山 邦雄 蠶十二 宮前と改姓

宮下 京三 蠶十二 片倉製絲紡績株式會社佐賀製種製造所(佐賀縣小城郡小城町)

村田 孝男 蠶十三 埼玉縣秩父郡野上村

水野 廣 蠶十三 片倉製絲紡績株式會社福島製種製造所(福島市五十邊五)

宮崎 貞義 蠶十四 福島縣蠶業取締所 福島支所(福島市前川町) 訂正

倉澤 一二三 蠶十七 宇都宮歩兵第五十九聯隊第十中隊

瀧口 昇 蠶十七 豊橋工兵第三大隊 第一中隊

橋本 博 蠶十七 宇都宮野砲兵第二十聯隊第四中隊

宮川 俊雄 蠶十七 同 第五中隊

青木 幸雄 蠶十七 同 第七中隊

本間 國夫 蠶十七 高田歩兵第三十聯隊第十中隊

伊藤 力三 蠶十七 南佐久農林學校 (長野縣南佐久郡北牧村)

丸山 忠良 絲一 日本棉花株式會社 神戸出張所(神戸市東町二二三)

兒玉 忠雄 絲二 特許局(東京市麹町區大手町) 訂正

補田元之助 絲七 那美製絲株式會社

(京都府綾部町)

横山 英一 絲十二 山十製絲株式會社 福島製絲場(福島市)

萩野 喜次 絲十七 宇都宮歩兵第五十九聯隊第十中隊

瀧澤啓四郎 絲十七 高井社(長野縣下高井郡中野町)

矢島隆之助 絲十七 東京府駒澤町野砲兵第一聯隊第五中隊

岡 豊次郎 紡五 關西製絲株式會社 松阪分工場(三重縣松阪町)

山手 信男 紡九 廣島野砲兵第五聯隊

桐本他喜男 紡九 東京府中野野砲兵第一中隊

蠶絲學雜誌購讀に就いて急告
昨年十一月二十三日の代購員會に於て蠶絲學雜誌發刊を別途會計でやる事に決定致しました。

從來は會員全般に送達して居りましたが昭和六年度(第四卷第一號)からは御希望の方々にのみ御送りする事になりました。従つて一般の同窓會費は從來の五圓を四圓に値下げしまして蠶絲學雜誌の御入用の方からは尚一回(即ち合計五圓)敷く事になりました。但し既に終身會費を御拂込みの方へは從來通り右の一圓を拂込まれなくても御届け致します。

蠶絲學雜誌刊行の都合上希望者数を早く知り度いのですから御希望の方は同窓會宛「蠶絲學雜誌購讀希望」の旨至急御通知が願ひ度いと存じます。若し御通知のない方々は不用なものとして昭和六年度からは送達しませんから御承知願ひます。

尚本會員外の方で御希望の方は年額一圓五十錢を載せて御送届を致します。

上田蠶絲專門學校同窓會

來ル三月十五日午前十時三十分ヨリ本校内ニ於テ第十八回卒業證書授與式舉行致候ニ付御出席相成度御案内ニ換ヘ茲ニ謹告候也

昭和六年三月

上田蠶絲專門學校

同窓會員各位

追而 御臨席ノ時ハ其旨十三日迄ニ御回答被下度候

御知らせ

支部所在並支部長更迭

支部名 支部長名 所在地
 奈川川 長見公祐 日本生絲株式會社 (横濱市本町)
 近畿 吉川孟文 京都市土木局區劃整理事課

卒業證書授與式

母校第十八回卒業證書授與式は來る三月十五日午前十時半より新講堂に於て舉行される。

本年度入學志願者數

母校本年度入學志願者は募集人員養蠶、製糸、紡績、各科を通じて約百名の處三月五日現在受付數三百三十一名、締切は三月十五日。

無試験檢定入學者

母校本年度無試験檢定入學志願者二十八名中詮衡の結果去る二月二十六日左の通り入學を許可せられた。

養蠶科

新野元治郎 (群馬)

(順序不同)

にはこれの分では新學年から元通り教鞭をとられることであらう。

談話會記事

蠶絲業に關する研究調査の發表や紹介、討議を目的として毎週金曜日に母校内に開催される蠶絲名物の談話會はその都度聴講者堂に満ち溢るゝの盛會を續けて居る。最近の演題及び講演者は左の如くである。リソレンチンに就いて 井上柳梧 鱗翅目昆虫の血球に就いて 永井 覺 紡績單絲の摺 四宮太郎 熟蠶冷蔵試験に就いて 金澤 勇 眞正人造絹絲即ち再生絹に就いて 北澤孝一

田中氏の Vitamin B の主態に就いて 平澤 勝 Sex control 中曾根長男 福井縣に於ける最近の絹絲の消費狀況 野口新太郎 繭の通氣性、附通氣性と浸透性及解舒率との關係 内田 浩 X線管球 山口定次郎 みづの一生 三輪貞徳 絹絲の構成 萩原清治

ハイドラフトに就いて 野口新太郎 農業合理化の二形態 茅野清三郎 桑位による水分蒸發速度の差異に就いて 山下 忠雄 人工孵化刺戟の強弱が蠶兒の抵抗力に及ぼす影響 橋本 博 夏蜜柑の生理學的的研究 小山哲夫 現在の活動寫眞に就いて 三輪 貞徳

絹蛋白質の研究 北澤孝一 化學式の天休への應用 原田親雄

中澤勝也氏病氣快復 小縣蠶業學校教諭中澤勝也氏昨年秋より御病氣のところ昨今大部快方

柞蠶繭の解舒曲線に就いて 伊藤力三 日光の血液に及ぼす影響に就いて 山口定次郎 暑候等壓線の傾向と一月寒暖消長との關係 志田 敬夫 桑の肥料試験に就いて 須田 圭二 矢の話 窪田 潤 蠶兒及蠶蛹の免疫に就いて 和田 利彰

人造絹絲と再生絹絲 加美好男 金屬顯微鏡組織のセルロイド印刷法に就いて 萩原清治 蠶体内に注射したる異物に就いて 永井 覺 切歩に就いて 坂本孝子 銀塊相場下落の原因 茅野清三郎

化粧石鹼原料油脂配合に關する研究 小山哲夫 濕度裝置に就いて 安喰 定治

二八會例會

京坂地方在住紡績科卒業生の同志で組織する二八會は其例會を二月一日早梅薫る大坂府大濱潮湯に擧げた。會する者伊藤、河西、巢山、今吉、今村、吉津、上田、白井、山内の九名。久し振の水入らずの會合に皆充分上田氣分を發揮し大いに平素の苦を醫した由



(るあで書せ寄念記の日當は眞寫)